

## 地すべり学会東北支部 第9回地すべり現地検討会『滝坂地すべり』参加報告

千葉 則行

昨年10月27日、28日の両日、秋空の好天のもと、福島県・滝坂地すべりにおいて、大学・コンサルタント・官公庁等から約120名が参集し、地すべり現地検討会が開催された。

本検討会は支部が発足した昭和60年以来、『東北の地すべりの認識と対策』をテーマに、各県の代表的な地すべりを対象に毎年行われてきたものである。東北六県を一巡した平成4年からは、『東北地方における特色ある地すべりと防災技術』という新たなテーマで、これまでに山形、秋田の両県で開催され、今回の福島県での開催は二回目にあたる。

初日の午後、二箇所の集合場所（宿泊所及び会津若松駅前）から各々マイクロバスで一路、西会津町内の滝坂地すべりに向けて出発した。現地で合流した後、まずはじめに支部長の盛合禰夫東北工業大学教授の挨拶があり、さっそく現場担当者による現地の概要説明が行われた。

滝坂地すべりは一級河川阿賀川の右岸側に発生したもので、新潟県境まであと数kmといった地点に位置している。規模は南北約2,100m、東西約1,300mであり、東北地方では云うに及ばず、本邦でも希にみる大規模の地すべりの一つである。明治21年

に地すべり現象が初めて確認され、その後比高30～40mの丘陵地塊の割れ、あるいは深さ30mにも及ぶ多数の亀裂発生等の現象が顕在し、今日に至っている。



地すべり末端部のV字谷を流れる阿賀川

滝坂地すべりは北ブロックと南ブロックからなっているが、現地の見学は南ブロックを中心に行われた。はじめに地すべり末端部を流れる阿賀川への移動土塊の押し出しによる護岸工の破壊、及び河床上昇による水面落差（滝）の出現状況を見学した。この付近の阿賀川はちょうどお銚子の口のように川幅の狭いV字谷を呈し、また福島西部山地及び会津低地の河川水のすべてがここを流下することから、地すべりによる河川閉塞となった場合にはその社会的影響の大きいことが容易に想像できた。

次に、バスで南ブロック中央部へ移動し、広場に設営されたパネル及びボーリングコ

アを前にして詳細な地質状況の説明を受けた。地質は先第三系の花崗岩類とその上位の新第三系のアルコーズ質砂岩、緑色凝灰岩、泥岩からなり、すべり面はアルコーズ質砂岩と凝灰岩の境界付近に形成され、その深さも約100mに達するとのことであったが、参加者一同、あらためて滝坂地すべりの規模の大きさを印象付けられたようだった。なお、滝坂地すべりは大規模な岩盤地すべり型を呈しており、またすべり面も深いことから、通常の方法ではすべり面の検出が困難であったために、独自のすべり面検出方法を採用したことも紹介された。

広場における説明の後、南ブロックの大陥没地帯の中を細道に沿って歩いて見学した。途中、小丘を構成する岩盤中の巨大な縦亀裂（空洞化）の前では、参加者が一様に興味をもって立ち止まり、カメラのシャッターを押していた姿が多かった。徒歩約40分の見学後、再び広場に戻って終了し、当日の宿泊・懇親会場である熱塩温泉に向かった。今回、短時間の見学ではこのような大規模な地すべりの全体像が十分把握仕切れ



広場に設営されたボーリングコアの展示

ないのではという心配もあったが、詳細な資料あるいは要所々々での担当者の説明もあって、二日目の討論会のための基礎的知識は十分に参加者全員に伝わったようであった。

600余年前に開湯されたといわれる熱塩温泉に到着し、さっそく湯に浸かりながら当日の疲れを癒した。熱塩温泉は古来より「子宝の湯」として知られているが、参加者への効能は十分であったようだ。その後、恒例の懇親会が開かれ、夜遅くまで盛り上がった。

二日目の翌朝、宿泊所の大広間を会場にして、支部長の司会進行役のもとに討論会が開催された。まず担当者の前日の補足説明から始まり、次いで福島県土木部砂防課の原利弘氏から行政面のこれまでの経過説明があった。この中で、滝坂地すべりのような大規模地すべりの場合、その全体的な機構解明のためには20年ぐらいのタイムスパンでもって、データの蓄積、継続的調査が必要であることを強調された。引き続いて、参加者を交えて地形、地質、地下水、計測、技術的対策、地域住民への啓蒙等といった面について質疑応答あるいは提言がなされた。最後に、支部長が討論会の締め言葉として、基盤花崗岩が関わるような地すべりの発生機構の解明には、従来のような地すべり地内を範囲とする調査に留まらず、広域的な調査が必要であろうと提言し、正午前に討論会を無事終了した。

昨年新聞紙上でも紹介されたように、

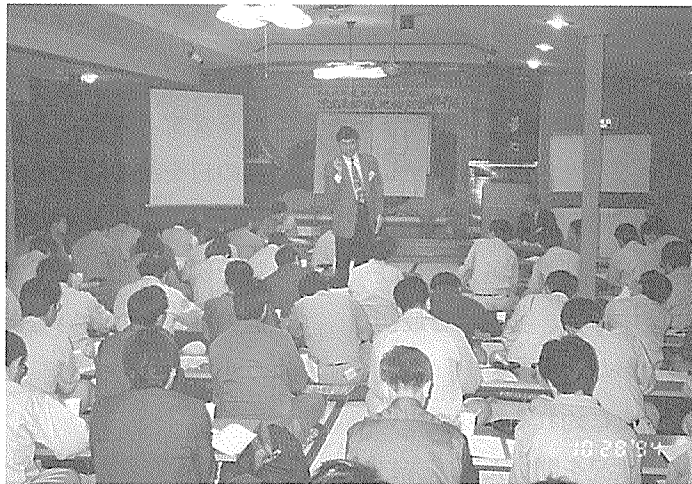
滝坂すべりに対して国の直轄砂防調査費の  
平成7年度予算が採択されたようであるが、

今後の調査に大いに期待したいところであ  
る。

(東北工業大学土木工学科)



パネルの前で説明を受ける参加者



討論会場にて